



GBRC 特別セミナー

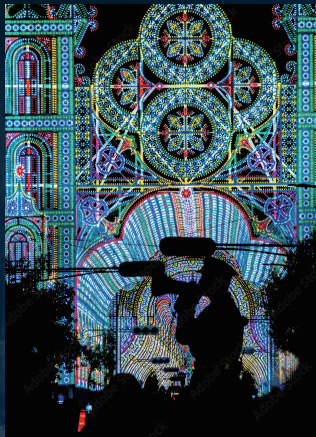
1995年 兵庫県南部地震から30年、 最新の強震動予測技術 で明日の関西の揺れを考える

2025年 5月28日(水) 13:30 ~ 17:00

中之島フェスティバルタワー・ウエスト 4F 中之島会館

参加者 先着 200 名様 参加申し込み 裏面 QR コードよりお申込みください

● 建築 CPD 情報提供制度の CPD 認定研修 (3 ポイント)



Seminar Contents

入倉 孝次郎

1995 年前夜の強震動地震学の状況と
その後の強震動予測手法 (レシピ) 発展の歴史

Petukhin Anatoly (ペトゥヒン・アナトリ)

1995 年兵庫県南部地震の
野島断層セグメントにおける断層破壊過程の再評価

岩田 知孝

奈良盆地東縁断層帯における
重点的な調査観測から得られた新たな知見と予測強震動

多賀 謙蔵

大震研が提示した上町断層帯地震による設計用地震動の活用事例

川瀬 博

南海トラフ地震の 3 連動モデルによる関西全域の設計用入力地震動試算

主催：(一財)日本建築総合試験所 (GBRC)

後援：(公社)日本地震工学会・(公社)日本地震学会・(一財)日本建築構造技術者協会・(一社)日本建築学会「予定を含む」

1995年兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）から30年が経過し、我が国の強震観測網は各段に高度化・高密度化されて多くの記録が提供されるようになり、それに基づいて強震動予測の技術も30年前には想像もできなかったレベルで観測事実即ち高度化・最適化が図られてきた。この30周年という節目の年に、改めてあの震災を振り返って、そもそも兵庫県南部地震とはどんな地震だったのか、その後全国に展開された強震観測網の大量のデータから我々は何を学んできたのか、そしてその強震動予測技術に基づく将来の西南日本はどのような揺れに備える必要があるのか、について専門家に情報提供をお願いするとともに、GBRC側からも素材を提供させていただき、それらを用いてご参加いただく皆様と共に考えていきたいと思っております。

PROGRAM

TIME	内容	出演
13:30 ~ 13:35	ご挨拶	
13:35 ~ 14:20	1995年前夜の強震動地震学の状況と その後の強震動予測手法（レシピ）発展の歴史	《愛知工業大学客員教授》 入倉 孝次郎
14:20 ~ 14:50	1995年兵庫県南部地震の野島断層セグメントにおける 断層破壊過程の再評価	《京都大学防災研究所 /GBRC》 ペトゥヒン・アナトリ
14:50 ~ 15:20	奈良盆地東縁断層帯における重点的な調査観測から 得られた新たな知見と予測強震動	《京都大学名誉教授》 岩田 知孝
15:20 ~ 15:30	休憩 10分	
15:30 ~ 16:00	大震研が提示した上町断層帯地震による 設計用地震動の活用事例	《GBRC》 多賀 謙蔵
16:00 ~ 16:30	南海トラフ地震の3連動モデルによる 関西全域の設計用入力地震動試算	《GBRC》 川瀬 博
16:30 ~ 17:00	パネルディスカッション	入倉 孝次郎 / ペトゥヒン・アナトリ / 岩田 知孝 / 多賀 謙蔵 / 川瀬 博

講演者紹介

1995年前夜の強震動地震学の状況とその後の強震動予測手法（レシピ）発展の歴史

内陸での大きな地震は活断層に起因し、地震による被害の多くは強い揺れに依ることは学術的には1995年頃には良く知られていた。しかしながら、断層に地震が生じたとき揺れはどのようなものかの研究は遅れていた。その理由の1つは断層近傍での揺れの記録がほとんどなかったことにある。この地震の揺れがどのようなものであったか？極めて限られた記録を集め、震源と伝播経路を復元し、揺れを再現するための闘いについて報告する。

入倉 孝次郎 IRIKURA KOJIRO



《略歴》

1963年京都大学理学部物理学科卒。
京都大学理学博士。京都大学防災研究所助手、
助教授、教授、所長、京都大学副学長を歴任。
現在愛知工業大学客員教授。
専門は強震動地震学。

1995年兵庫県南部地震の野島断層セグメントにおける断層破壊過程の再評価

兵庫県南部地震の際の淡路島の観測点AWAの観測波形再現を目指し、非線形3Dインバージョンと相反法を利用したグリーン関数を用いて強震動予測手法（レシピ）を参考に特性化震源モデルにより野島断層の破壊過程を改めて評価した。

Petukhin Anatoly ペトゥヒン・アナトリ



《略歴》

1983年Moscow Institute of Physics and Technology (MIPT)より修士号取得、1987年ロシア科学アカデミー着任、1999年Schmidt Institute of Physics of the Earthより博士号取得、その後京都大学防災研究所ポスドク研究員、地域地盤環境研究所（のちGRI財団）主任研究員を経て、2024年より京都大学防災研究所特任教授、兼GBRC数値解析室上席調査役。

奈良盆地東縁断層帯における重点的な調査観測から得られた新たな知見と予測強震動

令和元～3年度に文部科学省の受託研究として実施された「奈良盆地東縁断層帯における重点的な調査観測」では、活断層帯の長期評価および強震動評価の高度化に資する調査研究を行った。そこで得られた知見および想定地震に基づく強震動評価結果について紹介する。

岩田 知孝 IWATA TOMOTAKA



《略歴》

1989年京都大学大学院理学研究科博士課程修了、京都大学理学博士、日本学術振興会特別研究員、京都大学防災研究所助手、同教授2024年定年退職、京都大学名誉教授

大震研が提示した上町断層帯地震による設計用地震動の活用事例

「大阪府域内陸直下型地震に対する建築設計用地震動および設計法に関する研究会（略称：大震研）」がその成果を提示して十余年が経過した。関西の構造設計者を中心とする自主的な研究組織の発足からの経緯と成果の概要を振り返ったのち、高層建築物等の構造性能評価期間としてのGBRCから見た成果の活用状況と今後の課題について考察する。

多賀 謙蔵 TAGA KENZO



《略歴》

1979年4月～2010年12月
株式会社日建設計（主に構造設計）
2011年1月～2022年3月
神戸大学大学院工学研究科建築学専攻教授
2020年6月～現在
一般財団法人日本建築総合試験所 常務理事

南海トラフ地震の3連動モデルによる関西全域の設計用入力地震動試算

南海トラフ沿いの巨大海溝型地震の発生が危惧されており、それに対応した設計用入力地震動を適切に使用することは西南日本における長周期構造物のレジリエンス確保に向けた重要課題である。GBRCではより高精度な強震動予測の実施とその社会実装を目指して、関西全域2府4県の1kmメッシュでの設計用入力地震動の整備を準備してきており、その基本方針と想定パラメータ、および発表時点までの試算結果の概要を報告する。

川瀬 博 KAWASE HIROSHI



《略歴》

1978年京都大学工学部卒、1980年同大学院工学研究科修士、同年清水建設（株）入社、1986年～1988年南カリフォルニア大学留学、1990年京大工博、1998年清水建設退職、九州大学助教授着任、2000年同教授、2008年京都大学防災研究所教授、2018年同特任教授を経て2024年2月よりGBRC理事長

お申込み方法

下記QRコードまたはURLより
申込みフォームからお申込みください。

<https://shiken.gbrc.cloud/joins/add/168>



！お問合せ！

一般財団法人
日本建築総合試験所 事務局 研修課

06-6834-4775

kensyu3@gbrc.or.jp

※定員に達した時点で締め切りとさせていただきます。